

回覧	<稲むらの火の館>	第14号	年に一度は
広川町	やかただより	H23・5月	館に行こう！

○4月1日より、東北関東大震災の様子等について、3月12日～31日までの新聞記事の切り抜き展示を多目的室で見てもらっています。

貼り付けるときもそうでしたが、涙なしでは見てられません。多目的室でじっくりと見入ってくれるお客さんが大変多いです。

○小泉八雲の曾孫にあたられる小泉凡さんが稲むらの火の館を訪れてくれました。

小泉八雲は安政南海地震津波の際に、梧陵が高台に村人を避難させ、人的被害を最小限に留めた実話を物語化した「生き神」を執筆しました。これは、明治29年の三陸地震津波で2万人以上の犠牲者を出したときの惨状を受けた執筆でした。

その後、中井常蔵先生によって「稲むらの火」という題で小学校の国定教科書に載ったことはご承知の通りです。

その八雲の曾孫である小泉凡さんが来館してくれました。

凡さんは、現在島根県立大学短期大学部教授で、小泉八雲記念館の顧問をされています。



館でそれぞれの記念館の情報交換を行いました。そして、わざわざ印南町から中井常蔵先生のご子息で中井智一氏や耐久大学学長の清水先生、語り部サークルの崎山会長さん、教委の平井さん、そして私とで情報交換会を持ちました。

小泉八雲記念館では、現在、東北関東大震災を受け、八雲の防災に対する先駆的な関心と、津波から身を守る先人の機知と勇

気を伝えるために、八雲の津波関係作品の展示と義援金を募っているそうです。

○館内に義援金の募金箱を設置しています

広川町では、東北関東大震災の被災者に対して、義援金をお願いしています。

館でも募金箱を設置していますので、被災者のためによりしくお願いします。

○稲むらの火の館の来館者数が10万人を達成しました。

4月17日（日）遂に10万人目の人が入場しました。奈良県王寺町から池の原自治会という団体（48名）でお越しの中から西川行雄さんです。



西川さんは元消防士で防災には関心が高く、光栄ですとにこやかに話されていました。

○お客さんの声コーナー

＊10万人達成の記事を見て見学に来ました。来よう来ようと思ってたのに、もう少し早く来たら良かったな。（休館日とは知らずに月曜日に来てくれたそうです。4名様で来館）

＊堺市に津波が来たときは、当時芋を植えていて、芋のつるに足を取られてなかなか逃げるのができなかった。3Dの映画はとても良かったよ。（個人で8名様来館）

やかただよりがインターネットで見ることができます。

稲むらの火の館で検索してください。

そして、ブログの中に、やかただより5月号がありますので、開いてください。

カラーで見ることができますよ。

裏もご覧下さい。

*記念館だけの入場は無料です。